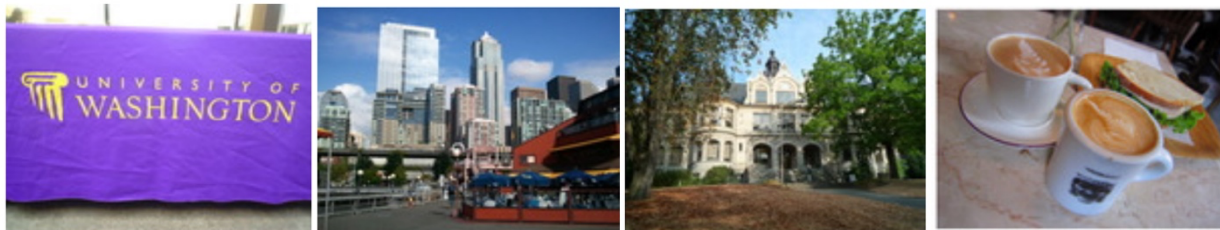


## ワシントン大学夏季英語研修



ワシントン大学は、アメリカ西海岸最北部のワシントン州の中心都市シアトルに位置する歴史ある州立大学で、州立大学トップ校で形成される「パブリック・アイビー」の一つです。大学内には図書館、コンピュータ室、ジム、ビリヤード場、美術館といった充実した施設が整っています。またシアトル市内には Microsoft 本社、Amazon 本社、Starbucks 本社、Boeing 工場などがあります。

本研修の履修登録は担当教員が6月下旬に行います。成績は神戸大学における総合教養科目「グローバルチャレンジ実習」（GCP 2単位）または全学共通授業科目「Advanced English（海外研修）」（選択科目 1.0単位）の成績として学部1-4年生に前期末に単位授与（可～秀）されます。

### 【注意】

1. 本研修の単位は国際人間科学部の必修単位（GSP 単位）としては認められていません。
2. 海洋政策科学部と医学部の学部生、大学院生（全研究科）には「Advanced English（海外研修）」（選択科目 1.0単位）の単位は授与されません。
3. 2025年度以降に入学した学生はGCP（グローバルチャレンジ実習（GCP：ワシントン大学研修・言語文化研修型・前期・アメリカ）2単位）しか履修できません。全学共通授業科目「Advanced English（海外研修）」（選択科目 1.0単位）は履修できません。

### 【2025年度ワシントン大学研修】

募集人数：14名

研修先：アメリカ合衆国 ワシントン大学 <<https://www.washington.edu/>>

研修日程：2025年8月15日（金）出発、9月11日（火）帰国

プログラム：Short-term English Language Program Language & Culture Session 4 <<https://www.ielp.uw.edu/programs/short-programs/language-culture-step/overview>>

宿泊：ホームステイ（全日程）

費用：2024年度は463,000円（航空運賃、ホームステイ代、ホームステイ先での1日2食の食事代、旅行代理店に銀行振込）に加えて、ワシントン大学の授業料1840ドル（5月上旬にワシントン大学にクレジットカードでオンライン決済）

資料：本PDFの後半

奨学金：JASSO奨学金（11万円）または神戸大学基金助成金（追って支給額発表）の支給対象プログラムです。（いずれも成績要件あり。支給される学生に対しては事務より5月のGW明けに個別連絡あり。）

問合せ：国際コミュニケーションセンター 助教 濱田真由 <myhama@harbor.kobe-u.ac.jp>

### 【研修の申込】

第1回説明会：2月6日（木）12:30-13:00 Zoom（ID 976 9269 5202/パスコード 996342）

第2回説明会：4月17日（木）12:30-13:00 Zoom（ID 926 6268 0493/パスコード 458636）

研修申込受付期間：4月14日（月）～4月25日（金）23時59分59秒

申込：Google Form < <https://forms.gle/43LVxGAzCNKXCcKS9> > よりお申し込みください。

### 【過去の応募状況】

-2024年度：9名応募、9名全員採用（1年生2名 2年生4名 3年生1名 4年生2名）

-2023年度：9名応募、9名全員採用（1年生3名 2年生3名 3年生1名 4年生2名）

-2020-2022年度 実施せず

-2019年度：13名応募、13名全員採用（1年生6名 2年生7名）

-2018年度：11名応募、11名全員採用（1年生3名 2年生7名 修士生1名）

-2017年度：25名応募、25名全員採用（1年生13名 2年生9名 3年生3名）

-2016年度：26名応募、26名全員採用（1年生13名 2年生9名 3年生4名）

-2015年度：22名応募、22名全員採用（1年生7名 2年生10名 3年生4名 4年生1名）

-2014年度：44名応募、選考の結果34名採用（1年生7名 2年生25名 3年生1名 4年生1名）

-2013年度：54名応募、選考の結果38名採用（1年生11名 2年生20名 3年生7名）

### 【ワシントン大学研修後の長期留学と大学院進学実績】

2019 年度研修生：リエージュ大学（ベルギー）

2018 年度研修生：兵庫県ワシントン州事務所（アメリカ ワシントン州 インターンシップ）

2016 年度研修生：ニューヨーク市立大学（アメリカ）トビタテ! 留学 JAPAN 7 期生、サン・ルイ大学（ベルギー）、ボッコーニ大学（イタリア）

2015 年度研修生：カレル大学（チェコ）

2014 年度研修生：ワシントン大学（アメリカ）、ニューヨーク市立大学（アメリカ、うち 1 名私費留学）、バルセロナ自治大学（スペイン）、釜山大学（韓国）、リンショピン大学（スウェーデン）、タンペレ工科大学（フィンランド）トビタテ! 留学 JAPAN 3 期生、西オーストラリア大学（オーストラリア）トビタテ! 留学 JAPAN 7 期生

2013 年度研修生：ヴェネツィア大学（イタリア）、西オーストラリア大学（オーストラリア）、リンショピン大学（スウェーデン）、京都大学 農学研究科 進学、京都大学 情報学研究科 進学

2012 年度研修生：クイーンズランド工科大学（オーストラリア）、西オーストラリア大学（オーストラリア）、ダブリンシティ大学（アイルランド）、マンチェスター大学（イギリス）、ワルシャワ大学（ポーランド）、ヤゲウォ大学（ポーランド）、The University of Texas, Austin, Physics Ph.D. Program 進学、東京工業大学 総合理工学研究科 進学

2011 年度研修生：ユタ州立大学（アメリカ合衆国）、ルーヴァンカトリック大学（ベルギー）、ソウル国立大（韓国）、シドニー大学（オーストラリア）、オーフス大学（デンマーク）

### 【過去の研修生より】

#### 2023 年度研修生 法学部 小曾根 葵さん

大学在学中に一度は海外に行って異文化を体験したい、そんな思いでこの研修に応募しました。シアトル滞在中は、ホストファミリーやワシントン大学の学生・先生、インタビュー課題や通学・観光の中で出会う人と想像していた以上にたくさんの人とコミュニケーションをとる機会に恵まれました。母国語ではなく第二外国語として学んだ英語を使いこなしている人や、自分と同年代の現地学生との会話からは特に刺激を受けました。

また、約 1 か月生活する中で、世界各地から多様なアイデンティティ・価値観・文化をもつ人々が集まり、その文化が組み合わさって「アメリカの文化」がつくられていくということ、いわゆる「人種のるつぼ」とか「人種のサラダボウル」とは何か、初めて分かった気がしました。同時に、自分の過ごしてきた環境や自分のもっている価値観は数あるうちの 1 つに過ぎないのだということに改めて気づかされました。

振り返ると、この研修だけで英語力が飛躍したり、自分の考え方が全く変わったりしたわけではありません。しかし、参加すると決断したことも含め、研修全体を通して得た経験は、失敗を恐れず新しいことに挑戦していきたいという意欲、そして自信につながりました。現地に行くからこそで

きる経験や学びがたくさんあり、どのような進路を考えている人にとってもきっと有意義な時間になるはずです。私自身もこの研修を活かし今後努力していきたいと思っています。

#### **2014 年度研修生 農学部 高階 空也さん（トビタテ!留学 JAPAN 7 期生）**

人生の生き方が変わりました。大げさに言っているわけではありません。これまでとは全く異なる新しい生き方を始めるきっかけとなったのがこのワシントン大学研修でした。人生の転機でした。センター試験の英語リスニングテストは 50 点中 22 点。今でも鮮明に覚えているほど英語が大嫌いでした。しかし「海外に行ったことがあるよ」と言うためだけに大学 2 年生の夏にワシントン大学研修へ参加しました。

何もかもが日本と違いました！全てに戸惑ったと同時に全てに感動しました！道の聞き方もわからないほど英語は話せませんでした。身振り手振りで自分の思いを相手に伝えることができること、日本では会えない人々と意思疎通ができることにとっても感動しました。日本しか知らない自分の世界がいかにか小さいものを思い知りました！日本を出れば世界にはもっと色んな人たちがいて、その人たちと交流しないことがどんなにもったいないことなのかを痛感しました！

研修に参加する前はサークル活動もほとんど参加せずただバイトをして大学生活を過ごしていました。しかしシアトルから帰国してからは、国際的な環境に身を置き、様々な国の人と話したいという思いから、諸外国から国際的に大学生が集まる国際学生会議に所属し、今では副実行委員長を務めています。また大嫌いだった英語も猛烈に勉強して交換留学に必要な TOEFL スコアも獲得することができました。「努力を続けて行動を起こす」原動力に火をつけてくれたのは全てこのシアトルでの生活でした。

私ほど人生の生き方を 180°変える経験をする人も少ないかもしれませんが、もしまだ海外研修を体験していなければ行くべきだと思います。帰国後のあなたの人生が大きく動き出すかもしれません。日本ではない世界、広い世界を直に感じてください。

#### **2014 年度研修生 工学部 市民工学科 口井 雅之さん（トビタテ!留学 JAPAN 3 期生）**

私の留学生活は、スターバックスでの注文から始まった。白人のお姉さんと向かい合って 5 秒後には私はパニックに陥っていた。“chocolate”が通じなかった。“tall”が通じなかった。店員がなにを言っているのかわからなかった。名前を“Masa”と言ったら、出てきたドリンクに書かれていた名前は、“Mata”だった。カフェでドリンクを注文するだけのことで、今の自分にとっては困難であると痛感した。

授業での発言、街頭インタビュー、ホームステイ先でのコミュニケーションやシアトルでの生活は日本と同じところを探す方が難しいほど違って、無数の困難への挑戦の連続であった。不可抗力で襲いかかってきていた困難だったが、トライし続けるうちに成功体験が積み上げられ、自信が強まる。すると次は逆に自ら困難に飛び込めるようになった。挑戦することによって自信が生まれ、自信を持つことによって挑戦できる。困難から逃げていては何も始まらないと学んだ。

最終日、スターバックス本社を訪れた。敷地に足を踏み入れた瞬間、内装・構造の壮大さ、美しさに目を奪われた。想定していた机と椅子が効率的に並べられた環境などとんでもない。オフィスデスクになって誰も座っていなかった。社内のスターバックスカフェで自由に楽しそうに会議をしていた。環境が違えばこうも違うのか。シアトルの日常生活で頻繁に感じていたアメリカの「自由」を体現した職場であると感じた。それと同時に、アメリカの自由について知ったつもりでいただけで、自分で見て感じて、初めて実感を伴った理解が得られたことに気づいた。

本社の見学を終えた後、私はスターバックスカフェで注文の列に並んでいた。この一ヶ月、生活文化やコミュニケーションなど無数の困難へ挑戦し続けた私は、5秒後、余裕の表情で“hot chocolate”の“tall”を手にしていた。この留学で私が学んだことのキーワードは「自由」「実体験すること」「挑戦すること」の3つである。「自由」とは、自分の人生について、自分で考え、自分なりに生きていくことやその権利のことである。また、物事を本当に理解するには自分の目でみて肌で感じる「実体験」が必要である。「挑戦すること」によって自信が生まれ、自信を持つことによって挑戦できる。「挑戦すること」がはじめの一步である。

帰国して、私は専門を決める前に世界を自分の目で見てもっと知りたいと強く感じた。また自由について考えた時、これまで置かれてきた環境、慣習、周囲の視線、その他様々なものに縛られ、流されて生きてきたことに気付いた。親に勧められるまま、なんとなく行ったアメリカへの留学であったが、今度は自分の意志で長期の留学に行くことを決意した。アメリカでの経験があり、私は市民工学科としては前代未聞である学部3年で留学することを決意した。

しかし、理系の学部から留学に行くことには様々な障害があった。留学することは留年を意味すること。百数万の費用がかかるが、奨学金制度が充実していないこと。（他学部ではもらえる奨学金が工学部ではもらえない。）短期留学に行く前の私ならこれらの困難が現れた時点で諦めていただろう。しかし、挑戦してみなければ何も変わらない、始まらない。留学について詳しいと思われる大学教授のところいき、フィンランドでとれる授業を単位互換できるか、学部以外でもらえる奨学金はあるのか、片端から話を聞きに行った。その結果、単位互換は認めてもらえること、トビタテ!留学 JAPAN という奨学金を提供している組織があることを知ることができた。奨学金について聞いた後も、審査に合格するために教授や大学の面接担当の方にお願ひし、無事合格することができた。

挑戦した結果、トビタテ!留学 JAPAN に合格し、渡航費 20 万円、現地活動費月 16 万をいただいて現在フィンランドに留学している。それに加え、トビタテが提供する独自のコミュニティの恩恵も受けて、様々な活動に取り組んでいる。これは研修で学んだ挑戦する意思、姿勢があったからこそ獲得できたことである。

もちろん、アメリカでの生活で感じる事、学ぶことは人それぞれであると思う。快適な空間から飛び出し、日々無数のトライをして、自分の価値観を揺るがず経験を積むことは今後の人生に影響を及ぼすことは間違い無い。留学に少しでも興味をもっているのであれば、挑戦へのはじめての一步として、考える前にトビコンで見てはどうだろうか。

### **2012 年度研修生 農学部 小西 康介さん**

最初に少し僕の英語学習の変遷について紹介します。僕は 2012 年度のワシントン大学研修に参加した農学部生。半年後に交換留学の選考を通過して 2014 年 2 月から西オーストラリア大学に 1 年間留学。帰国後は TOEFL iBT 92 取得、全国英語プレゼンテーションコンテストに参加、決勝の一步手前まで進出 (TOP 20 位)。ただ僕の大学入学当時の英語力はセンター試験 160 点、それだけでした。そんな僕にとっての短期海外研修は、振り返ってみれば、非常に有意義な経験でした。

実体験をしたこと、これは大きな経験になりました。ホストファミリーと英語を話す楽しさ、難しさ、英語で授業を受ける刺激的な生活、広大な歴史あるキャンパスを散歩、どの瞬間も新鮮なものでした。どんな楽しそうな留学報告書を読むよりも、実際に短期海外生活を経験することは、交換留学を目指す上で大きなモチベーションになりました。

この短期海外研修では、自己研鑽の重要性にも気づくことができました。日本で僕よりも英語の学習に力をいれていた他の学生は、一つ上のレベルの授業を受講していました。それは羨ましかったですし、海外に行けば、行ってから、何かが変わると思っていた自分の甘さにも悔しくなりました。日々の積み重ねが次の挑戦の環境を決めることを実感しました。語学研修への参加を迷っている学生がいれば、とりあえず参加すればいいと思います。できればしっかりと準備して。行動を起こして実体験をすれば色々なものが見えてくると期待しながら。研修後に自分は海外生活に興味がないと気づく人がいるかもしれませんが、それが実体験をしたあとの結論なら、気持ちよく次の目標に向かえると思います。

### **2012 年度研修生 経営学部 矢部 健太郎さん**

シアトルでの短期海外研修は、私の大学生活、ひいては私の人生をも大きく飛躍させる「起爆剤」のようなものだった。短期海外研修に対して、「本当に英語力が伸びるのか」「ただの海外旅行じゃないのか」と批判的な意見を持っている人も少なくないだろう。確かに、3 週間の研修で英語

がネイティブ並にペラペラになったり、TOEIC が満点になったりするのはごく稀な例だ。しかし、この短期海外研修が学生にとって今後大きく羽ばたく「きっかけ」となることは往々にしてあり得ると私は断言できる。

実際、英語が苦手だった私にとって海外は縁遠いものであった。「みんな行ってるし、自分もちょっと行ってみようかな。」そのような気持ちでシアトルでの研修に臨んだ。しかし、ホストファミリーの温かさに触れたり、グローバル企業の本社ビルを訪れたり、そして何より外国人と英語でコミュニケーションをとるという機会にさらされて抱いた感情は「もっともっと頑張りたい」というものだった。

シアトルで湧き上がったモチベーションをそのままに、私は帰国後も英語に挑戦し続けた。研修の翌年には神戸大学英語プレゼンテーションコンテスト KUEPCON で優勝、そしてそのまま長期留学を決意し、10ヶ月間オーストラリアの大学で勉学に励んだ。その結果 TOEIC は研修前の 600 点台から 1.5 倍以上になり、外国人相手に臆することもなくなった。そして何より、これから社会に出て海外でやっていく自信に繋がったのは私の人生において大きな意味をもつだろう。

海外研修に行くまでは、まさか私が英語プレゼンコンテストに出場するとは、1年弱も留学に行くことになるとは、そしてこれから海外でやっているとは夢にも思ってもいなかった。全てはシアトルでの短期海外研修がきっかけとなったことは間違いない。この短期海外研修を海外に目を向ける「スタートライン」として捉えてみるのも良いのではないかと私は思う。

## **2012 年度研修生 理学部 高木 涼太さん**

僕は大学に入学する前から漠然とした海外への憧れがあった。「なんかカッコイイし大学に入ったら留学なんてできたらいいな」となんとなく思っていた。このワシントン大学研修に興味をもってこの文章を読んでいる人達にもそういう思いを抱いている人はいるんじゃないかと思う。具体的にこの研修を将来に繋げるところまで想像出来ている人なんてほとんどいないだろう。もちろん僕もこの研修に参加したときには将来のことなんて全く想像していなかった。ただこの研修のことを何かの機会に知って、面白そうだし参加してみようと思って軽い気持ちで参加を決めた。

実際にワシントン大学に行って感じたことはアメリカの大学の規模の大きさだった。日本の大学では考えられない風景が広がっていた衝撃を今でも思い出す。また人もとてもあたたかった。研修中の授業の一環として公園にいる人にインタビューをするという課題があったのだが、何を言っているかよく分からないであろう僕らの英語に対して笑顔で丁寧にインタビューに答えてくれた人々がとても印象に残っている。本当に3週間があつと

いうまで、日本でぼーっとした夏休みを過ごすよりも何倍も濃く新鮮なものだった。こんな環境で学生生活を送れたらどんなに楽しいものだろうかとそのとき思った。

帰国してからも理学部の専門科目をしっかり勉強する傍ら、少しでも英語に触れていようと思い外国人が集まるというクラブに繰り出したり、神戸大学の英語のプレゼンセミナーを受講したりとなんとか英語に触れる努力をしていた。授業の合間に理学部から国文までプレゼンセミナーを受けに行く僕の姿をみて友達が「よくやるよね～」なんて言われるくらいに合間を縫って英語に触れようとしていた。なぜかは分からないがこの地道な努力が将来役に立つだろうという確信があった。

4回生にあがる前に、どの研究室に入るか、また大学院はどうするかという進路について考えなければならない時期があった。そのときの僕は海外への憧れを捨てきれぬまま自分の専門の勉強に励んでいた。理系の学問の特性上、海外留学との両立は厳しいように見え、多くの人がそうするように普通に大学院へ行き、技術系の企業に勤めるという選択肢も考えた。しかし、ここで海外への憧れとワシントン大学での経験が僕をもう一つの選択肢へと目を向けさせた。アメリカの大学院に行けばその両立ができるのである。これは大きな決断であったが、その道を進むと決めてからは猪突猛進という言葉そのままに約1年間ひたすら勉強した。

2015年3月の始め、The University of Texas at Austin, Physics Ph.D. Program から合格通知が届いた。約5-6年のアメリカ生活への切符である。全ての始まりはこのワシントン大学研修だった。これがなければ海外への憧れを悶々と募らせたまま僕の大学生活は終わっていただろう。この3週間という研修期間で劇的に何かが変わるわけではないと思う。しかしその経験はその後の選択の際の視野を広げ、行動を起こす原動力となるには十分な力を持っている。



神戸大学 大学教育推進機構 国際コミュニケーションセンター 企画・支援

2025 年度  
ワシントン大学夏季英語研修  
説明会資料

2025 年 4 月 17 日 (木) 12:30~13:00  
Zoom  
(ID 926 6268 0493/パスコード 458636)



**15 August - 11 September, 2025**  
**The University of Washington, Seattle, USA**

## 本研修講座の趣旨

本研修講座は、神戸大学の学生諸君の外国語運用力を高め、あわせて異文化に触れる機会を提供するものです。教室での授業での日頃の学習の成果を試す実践の場でもあります。

本研修は、大学での勉学に必要な英語の運用力の向上とアメリカ合衆国の文化・社会の理解に資する内容となっています。英語学習において、実際に現地で暮らしながら、英語を学ぶことは重要な意味をもっています。それは、教室での擬似体験では得られない、生の英語に触れることで、週に2回、3時間という細切れではなく、毎日24時間、ときには夢の中でも英語という環境に漬かることです。英語という重力を体全体で感じることです。

海外外国語研修の目的は、海外で集中的に研修をおこなうことによって、効果的に語学力を高めるとともに、異文化社会に直接触れ、幅広い教養と視野を持った人材を育成することにあります。また、今後、中・長期の海外留学をしようという学生にとっては、その準備段階としても役立つでしょう。

## ワシントン大学夏季英語研修の概要

### 【受入機関】

ワシントン大学 (州立大学 The University of Washington)  
アメリカ合衆国 ワシントン州 < <http://www.washington.edu/> >

### 【プログラム】

The University of Washington, Short-term English Language Program (UW, STEP)

午前：コミュニケーション能力養成のための英語レッスン

Language and Culture クラス (英検・TOEIC・TOEFL のスコアなるべく提出)

< <https://www.ielp.uw.edu/programs/short-programs/language-culture-step/overview> >

午後：課外活動 (ダウンタウン観光、湖上アクティビティ等)

### 【日程】 (全日空 利用予定)

2025年8月15日(金) 伊丹空港出発 ~ 8月15日(金) シアトル・タコマ空港国際到着

2025年8月18日(月) STEPプログラム開始 ~ 9月5日(金) STEPプログラム終了

2025年9月10日(水) シアトル・タコマ国際空港出発 ~ 9月11日(木) 伊丹空港到着

### 【滞在先】

ホームステイを利用します。

※現地では、日本人コーディネーターが、シアトル・タコマ国際空港到着から出発まで、研修生の日々の生活をアシスタンスしてくれます。

### 【費用】

総額 463,000 円 (銀行振込) + STEP 授業料 1840 ドル (クレジットカード払い)

※上記は昨年度の金額です。2025年の費用は2月6日以降に更新します。

※今後の為替の動きによっては、この金額が増減することがあります。

※この総額には、航空券、STEP 研修費用 (教材、授業料、課外活動費等)、ホームステイ費用 (宿泊費、朝晩の食事代)、シアトル・タコマ国際空港~ワシントン大学間の送迎バス代金、が含まれます。

※大学で加入する海外旅行保険、現地での交通費、ランチやホームステイ先以外でとる食事(外食)にかかる代金、伊丹空港から自宅までの交通費、お土産代などは個人負担となります。

## 【対象・募集人数】

神戸大学在籍の学部生 14 名

※最小催行人数は 6 名です。申込者 5 名以下の場合でも渡航できますが、航空運賃が若干高くなります。

## 【オンライン申込】

申込は以下のサイトから行うこと。 < <https://forms.gle/43LVxGAzCNKXCcKS9> >

## 【申込受付期間】

2025 年 4 月 14 日（月）～ 4 月 25 日（金）23 時 59 分 59 秒

※必ず、この期限内に、submit ボタンをクリックすること。4 月 14 日以前、4 月 26 日以降に送信された学生の情報は選考の対象外となります。

※本研修の日程が、各学部で実施される実習や集中講義の日程と重なっていないかを十分に確認すること。（毎年、数名の学生が直前にキャンセルをしています。キャンセルをする時期によってはキャンセル代金が発生します。）

## 【研修生選考期間】

2025 年 4 月 26 日（土）～ 4 月 28 日（月）

※応募者多数の場合に限り、志望動機に基づいて研修生が選考されます。選考結果は、応募者全員に、4 月 26 日より <myhama@harbor.kobe-u.ac.jp> より email で連絡されます。

## 【研修生のスケジュール】

有意義で実りある研修にするために、下記の日程でオリエンテーションが行われます。研修生は必ず全てのオリエンテーションに出席すること。

5 月 2 日（金） ワシントン大学へ参加登録 （STEP 授業料支払い）	クレジットカード （オンライン）	STEP の参加登録を各自で速やかに済ませた後に、STEP 授業料 1840 ドル決済
5 月 16 日（金）12:30-13:00 第 1 回学内オリエンテーション	Zoom	各種申込用紙の記入方法の確認 STEP で受講を希望するクラスの確認
5 月 30 日（金）17 時	B 棟 1 階 （運動場側から 2 番目の扉）	参加申込書（保護者署名捺印）、ホームステイ申込書（3 ページ、写真貼付）、緊急医療処理承諾書（保護者署名捺印）、パスポートのコピー（顔写真のページ）、ESTA のコピー、OSSMA 誓約書（本人・保護者署名捺印）、以上の書類を提出
6-7 月 日程は追って発表予定	Zoom	兵庫県ワシントン州事務所と打ち合わせ
7 月下旬	銀行	旅行代金の振込締切
第 2 回学内オリエンテーション 8 月 6 日（水）10:30-15:00	対面	ホストファミリー、スケジュールの確認、課題内容準備
9 月 16 日（火）	うりぼーネット	GCP または Advanced English（海外研修） 成績報告

## 【OSSMA 危機管理プログラム・学内オリエンテーション】

学内で開催されるオリエンテーションに 1 回出席すること。（詳細は追って連絡します。）

# 2025 年度 ワシントン大学夏季英語研修 参加申込にあたっての留意点

1. 参加申込にあたっては、保護者ないしはご家族と十分に話し合った上で、お申し込み下さい。また、所属学部・学科の行事等、部活動のスケジュールなども十分に確認した上で、参加申込を行ってください。
2. 神戸大学の学生として恥ずかしくない行動をとることができる学生の参加を期待します。書類提出の期限、オリエンテーションへの出席、団体行動に対する意識など、規律ある行動をとるように心がけてください。このようなことが遵守されない場合は、参加を取り消すことがありますので、あらかじめご承知おき下さい。
3. 本研修は、研修プログラムの趣旨に照らして、神戸大学の学部学生、特に1~2年生を主な対象としています。レベルは初級~中級程度とお考え下さい。
4. 本研修の海外渡航期間を個人的に変更することはできません。定められた日程で出国、帰国することをあらかじめご承知おき下さい。規定の行程に従うことができない場合は、本研修への参加はみとめられません。
5. 本研修生に選ばれた学生で、パスポートを未取得の者は、ただちに申請手続きに取りかかってください。
6. 申込後は、よりよい研修となるように、また研修までの準備のために、「学内オリエンテーション」が3回開催されます。全てのオリエンテーションに必ず出席してください。
7. 本研修では、シアトル・タコマ国際空港到着から、シアトル・タコマ国際空港出発までは、日本人コーディネーターが同行します。
8. 本研修では、ホームステイ先に滞在します。原則として、ホームステイは、ホストファミリー1家庭に対して神戸大学生1名が配置される予定です。
9. 本研修の成績を以てGCP(2単位)またはAdvanced English(海外研修1.0単位)の単位授与(可~秀)が行われます。(ただし、海洋政策科学部・医学部・2025年度以降の入学生(全学部)はGCP(2単位)のみ履修可能です。)
10. 本学の海外研修に参加する学生は、「OSSMA 危機管理プログラム」への登録と、オリエンテーションへの参加も義務付けられています。具体的な手続きについては、国際コミュニケーションセンターの教員が指示します。なおOSSMAに関する費用は全て大学が負担します。

【オンライン申込上の注意】 オンライン申込サイト：<https://forms.gle/43LVxGAzCNKXCcKS9>

1. 電子メールアドレスは、申込後のさまざまな連絡に必要となるほか、研修中にも重要な連絡手段となりますので、海外でもメールがチェック可能で、国内でも頻繁に使用するメールアドレスを入力してください。
2. 学内の他の英語研修と重複して申し込むことはできません。
3. 応募者が多数の場合に限り、「志望動機」に基づいて研修生が選考されます。この申込は先着順ではありません。
4. オンライン申込受付の締切は4月25日(金)23時59分59秒です。

学内問い合わせ先

2025 年度 ワシントン大学夏季英語研修 担当教員

濱田真由(国際コミュニケーションセンター 助教) <[myhama@harbor.kobe-u.ac.jp](mailto:myhama@harbor.kobe-u.ac.jp)>